子どもたちの鋭い視点と新鮮な感性

第8回岩室村「少年の主張発表会」

小中学生の健全な心を育むとともに、村民の青少年健全育成に対する関心を高め理解を深めてもらおうと先月二十七日、岩室村公民館講堂で第八回少年の主張発表会 か開かれました この大会では、小学生五人、中学生八人の合計十三人が鋭い感性を発表しました テーマは身近な家庭のことから友達そして人生観までと、その内容もバラエティ豊かな発表ばかり 二百人を超す聴衆も子どもたちの鋭い視点と感性にたた感心するばかり…… そこで今号では、その子どもたちの鋭い視点と感性にスポットをあて、発表者たちの発表内容を少しご紹介します

「物とお金の大切さ」

本間 良くん
（岩室小学校6年）

この頃、ぼくの部屋はがらくただらけです。これらは、父や母が朝早くからかせいだお金で買ってもらったものです。それを机の下に落としたり、最後まで使わずにいました。でもやっと父や母の気持ちがよくわかりました。みなさんはエンピツや消しゴムを最後まで使っていますか。最後まで大切に使うのがお金をくれた人への礼儀です。今までお金のありがたさがわかっていなかった自分がはずかしく思うようになりました。今度から、お金をあまり使わないようにしようと思います。でも、全部買わないんじゃなく、ほしい物を決め、最後の最後まで大切に使うのが、今の自分にとって一番大切なことなのです。

「勇気を出して取り組もう」

飯田淳子さん
（和納小学校6年）

学校で先生がクラスのみんなに質問したとき、誰も答えません。それも二回、三回と。返事をしないのは、はずかしい、間違えるのがいやだ、注目されたくないなどが原因の様に思います。今年の春のクラス学級委員を決める時もそうでした。最後まで決まらず、でも私は勇気を出してやる事にしました。最初はいやでしたが、いろんな事を通して自分にプラスになる事も多くひきうけてよかったなあと思うようになりました。

誰にでも勇気はあると思います。ただ、勇気を出さないだけでないわけではありません。勇気を出すのにも勇気がいるけれども、これからは、何事にも勇気を出して、積極的になっていこうと思います。

「交歓会で深める友情」

私たちの学校では、夏と冬に塩沢町のとちくぼ小学校と交歓会をしています。今年で七年目になります。お互いの地域の環境や生活のちがいを体験することと友情を広げることを目的としています。

高津恵美さん
（間瀬小学校6年）

今年も七月十九日から行われ、半年ぶりに再会、とても元気そうです。海で泳いだり、ゲームをしたり、それに一緒に泊ったりして楽しい思い出になりました。このように楽しい思い出とともに、とちくぼの友だちや下級生とのふれあいを深めることができました。同級生が八人しかいないので友達がふえ友情を深めることはとても大切なことだと思います。これからも、とちくぼとの交流を深め、下級生にもひきついでいってもらいたいと心から思っています。

「自然を守る」

後藤久美子さん
（岩室小学校6年）

私たちの住む岩室はとても自然に恵まれている所です。しかし、地球全体で見ると、年々九州一つ分自然が減っているのだそうです。

私たち人間は自然の中の木や草がなければ生きていけません。しかし、その自然を人間は目先の利益や便利さのためだけにこわして良いのでしょうか。自然をこわすということは人間にとって不利なことのほうが多いようです。それに、自然の回復にはとても時間がかかります。だから自然を守ることはとても大切なのです。現在、この岩室にはありあまるほどの自然があり、空気もきれいです。しかし、何年かあとにはビルが建ち、技術の進んだ村になり、きれいな空気も空もなくなるかもしれません草むらのゴミを一つ拾うこと、そんな小さな心が大切で、自然を守るということが人間が生きていくために必ず必要なことなのです。

「班長をしてみて」

犬飼聡くん
（和納小学校6年）

初めての自然教室。朝集合したときはまだきんちょう感があった。だが時間がたつにつれて、みんなわいわいとさわぎはじめた。たぶん、うれしい気持ちと楽しい気持ちでいっぱいだったからであろう。僕のグループにはA君という人がいる。一日目から、そのA君とみんなをならばせるのに対立した。もうくたくたになりみんなをまとめていく気力は全くなくなった。でも、ここであきらめては班長はつとまらない、もう少し班の人たちの意見をとり入れなければならないと思い心をしっかり持つようになった。そうすると次第に班にまとまりがついてきた。この自然教室を通してぼくは、班長として自分のあまさを知った。だから、自かくを持って班長をやっていきたいと思う。

「友達について」

木村百合恵さん
（岩室中学校1年）

クラスというのは、友達どうし一緒に行動し、協力し合って仲よくしていくところであって、仲間割れをしたり、けんかをしたりするところではないと思います。だから学年でも協力し合うことはありたりまえのことです。（略）友達というのは、ふだんから親しく仲がいい意味です。それに加えて、お互いに信じ合える人こそ本当の友達といえるでしょう。

私の中学校生活の目標は、友達を大切なものと考えて、もう少し相手の気持を理解し、やさしい態度がとれるようになることです。とくに、相手を傷つけるような言い方などを決してしないことです。また、お互いに信じ合って、お互いに注意し合い、はげまし合える本当の友達をつくることです。そして、友情や協力する心を大切にし、これからの大事な中学校生活で忘れないようにしたいと思います。

「公共物愛護」

竹中今日子さん
（岩室中学校1年）

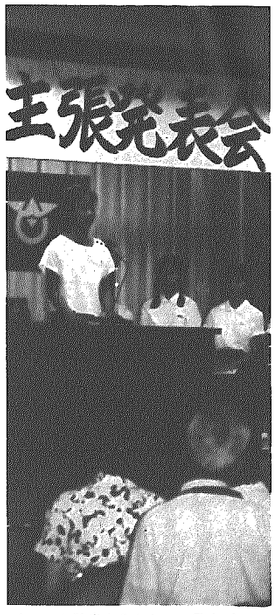
今、私たちの学校でトイレや消火栓などが壊され問題になっています。なぜ、このようなことが起こるのでしょうか。壊された原因は、ひょっとしたら私たちが作ってしまったのかもしれません。（略）

この問題について、生徒会からアンケートが出され全校で話し合いました。でも、どのような状態なのかよく分からなかったようです。結局は、一番簡単なようで一番難しい答えに行き着きます。それは、生徒一人ひとりが公共物を大切にする心を持つということです。まだまだ、私には他人を注意することなどというしっかりした心は、重すぎて持てないかもしれませんが、少なくとも、公共物を大切にする心を持てるように心がけていきたいと思います。まだ、この問題は解決していません。壊した人が名乗りでるまで、この問題をもっとよく考えて行きたいと思います。岩中の生徒一人として。

「老人の心の中は」

中澤素子さん
（岩室中学校2年）

私の祖父母はゲートボールが大好きです。でも近頃は体の具合が悪くなり、好きなゲートボールもできなくなりました。そんなことがあってから、私はいろいろ考えさせられました。（略）最近では、老人ホームの開発が進み老人の自殺などが多いように思います。そんなことが起ってしまうのは、何かで老人の人たちが苦しんでいる



ウーンと聴衆をうならせる発表ばかり